

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で古川議員の質問が終わりました。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

糸魚川21クラブの田原 実です。

発言通告書に基づき、以下質問をいたします。

1、公共交通と乗り物を生かす、定住と観光のまちづくりについて。

(1) 市内公共交通の現状と課題について伺います。

(2) 糸魚川市地域公共交通網形成計画に定める、鉄道利用向上、バス利用向上の施策について伺います。

(3) モビリティ・マネジメントへの取り組みについて伺います。

(4) 公共交通の新しいニーズを考えていますか、伺います。

(5) 大糸線全線開通60周年、えちごトキめき鉄道、えちごトキめき鉄道リゾート列車雪月花、サイクルトレイン、北陸新幹線、鉄道ジオラマの活用について伺います。

なお、通告書には書いてありませんが、リゾート列車雪月花に関しては、参考テキストとして、旅と鉄道2017年の7月号、鉄道ジャーナル2017年10月号を参照願いますということで、事前に事務局より担当課に伝えてあります。

(6) 市内観光スポットを公共交通でめぐる仕組みづくりについて、特に国石ヒスイと関連する市内の海岸、ヒスイ峡、フォッサマグナミュージアム、ガーデンミュージアムへのアクセスと利用性向上の施策について伺います。

2、ロケーション（景観）を生かすまちづくり、再生とにぎわいのまちづくりについて。

(1) 糸魚川市駅北復興まちづくり計画では、糸魚川らしさ、糸魚川の個性についてどう考えていますか、伺います。

(2) 被災した区域、周辺区域が最も繁栄したときの人口、なりわいの業種、産業について伺います。

(3) 観光客リピーターでにぎわう長野県小布施町は修景という手法でまちづくりを進めています。また、オープンガーデンが住民の自主的なまちづくりへの参加を促し、そのことが観光客に喜ばれています。この小布施流まちづくりが、多くの方から評価されています。糸魚川でも参考にして、糸魚川流まちづくりを進めるべきだと思いますがいかがですか。

なお、通告書には書いてませんが、小布施の修景については、東京理科大学名誉教授で、小布施町まちづくり研究所所長、川向正人さんの著書、小布施まちづくりの奇跡を参照願いますということで、事前に事務局より担当課に伝えてあります。

(4) 私がこれまでの一般質問で提言してきた、水・緑・木の空間を配置し、すてきな景観と防火の両面をあわせ持つまちづくりの推進について、再度伺います。

(5) 私がこれまでの一般質問で提言してきた、被災場所北側国道8号の手前に南向きの斜面を

つくり、日当たりのよいテラスハウス集合住宅や、日本海を見渡す（仮称）希望の丘海望公園をつくり、定住と移住と観光につなげることについて、再度伺います。

なお、道路の上につくる公園の例として、新潟市白山神社前の公園、白山公園、これはエレベーターと駐車場を備えたものでありますが、土地の複合的な活用の実例と考えますので、参照願います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、人口減少やマイカー利用などによる、公共交通利用者の減少があると認識いたしております。公共交通網の見直しが課題と考えております。

2点目と3点目につきましては、計画では市民・交通事業者・市が協働し、地域の実情に即した持続可能な地域公共交通の実現に向けて行う施策を定めており、地域公共交通協議会と連携をしながら、今後、これらの施策を実施してまいります。

4点目につきましては、広域観光ルートの開発や、生活利用での不便さ等から、公共交通の利用を諦めていた潜在的な需要の掘り起こしが考えられます。

5点目につきましては、大糸線全線開通60周年記念の取り組みを機に、JR西日本・えちごトキめき鉄道・県との連携をさらに深め、雪月花の新たな魅力創出、サイクルトレインや鉄道ジオラマの積極的な情報発信により、鉄道を活用した観光誘客に取り組んでまいります。

6点目につきましては、北陸新幹線開業により、糸魚川駅から観光施設への二次交通の需要が高まっており、ガイド付きの定期観光バス、マリンドリーム能生や親不知ピアパークなどへのシャトルバス、登山タクシーなどを展開してまいります。今後も、新たな取り組みを検討してまいります。

2番目の1点目につきましては、加賀街道や松本街道など、広域の拠点に栄えた宿場町として、雁木のある町並みと捉えております。

2点目につきましては、卸・小売業の事業者数が最も多かった、昭和50年代の大町地区と本町地区の人口は約1,500人で、飲食料品の小売業、飲食業が多くを占めておりました。

3点目につきましては、復興まちづくり計画では市民の役割として、みずからが住み暮らしているまちの主役として位置づけており、景観だけではなく、防火や記憶の伝承、にぎわいづくりなどにおいて、住民の自主的な参加を促してまいります。

4点目につきましては、防火・防災上の役割、住民に安らぎを与える役割、にぎわいを創出する役割などから、広場や公園を整備することといたしております。

5点目につきましては、被災地区北側の南向きの土地に、市営住宅を建設する計画を進めているほか、日本海を望める場所に公園の整備を位置づけており、良好な居住環境の創出に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、公共交通と乗り物を生かす、定住と観光のまちづくりについて、2回目の質問であります。まずは、明るい話題から。大糸線全線開通60周年のタイミングで、リゾート列車雪月花が、私たちの念願かなって、11月12日に大糸線を走ります。この経緯について、担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

雪月花につきましては、えちごトキめき鉄道が会社を始めたころから、熱心に取り組みおられたリゾート列車でございますが、そのリゾート列車が糸魚川に来るということで、糸魚川管内にある在来線、当然、えちごトキめき鉄道もございますが、大糸線もあるといったことで、大糸線の活性化、あるいは利用促進に寄与できるといったことから、市としましては、前々から何とか大糸線に乗り入れていただけないだろうかといったことを要望してまいりました。

その結果、この機会に、60周年記念といった大きな節目のときに、乗り入れていただけるという、大変いい結果になったと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

このチャンスを捉えてどのように生かしていくか、建設課と交流観光課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

建設課としましては、大糸線自体、なかなかその沿線の状況から、市民の皆さんになかなか乗ってもらえない状況にあるのかなというふうには考えております。そんな中で、建設課としてはその部分も含めてどういった形で、皆さんに愛される大糸線になれるのかといったところを、しっかりと市民の皆さんとお話をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

雪月花につきましては、旅行会社等でも非常に関心の高いツールだというように考えております。ある方に言わせると、キラコンテンツだといった言い方もされておるところであります。この雪月花について、これを核にした周遊ルートといったものを、さらにPRするいい機会だというように捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ラブ大糸線ということで市民に愛してもらえるようにということで、大変、結構なことだと思います。

雪月花については、この鉄道雑誌、旅と鉄道7月号のトップに雪月花が出てきます。10ページを使って、糸魚川の観光地も紹介されています。その後、どんな動きがあったか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

旅と鉄道の7月号ということでございますけども、鉄道雑誌であります。特に、鉄道に関心のある鉄道マニアの方が多く読まれている雑誌だというように思っております。そういったことから、数字では把握しておりませんが、より鉄道に関する関心が高まって、それにつられてお客様もおこしいただいてるんだと思っておりますし、さらに糸魚川の観光スポット、特に駅北の部分につきまして、詳細にご案内があるということで、これからの駅北を含めたまち歩き等に、関心が高まってくるというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

こちらの鉄道ジャーナル10月号は、観光列車の特集であります。夏の雪月花、越後の海と山に行くということで、12ページのすばらしい記事と写真。当時の泉田新潟県知事が、この列車で目指していたことまで解説しているんですね。

宣伝効果抜群のこの鉄道ジャーナルですけども、発行部数はどのくらいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

1 3 万部程度とお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9 番（田原 実君）

鉄道ジャーナルのほうは、鉄道ファンが、より詳しい記事をとということで、相当、研究した記事です。旅と鉄道のほうは、どちらかという一般的な人も、鉄道で旅に出ようよと、いい旅しようねということの特集じゃないかなと、私は思っています。

この記事が掲載される影響というものを、もう 1 回伺いたいんですけど、今は、鉄道雑誌も雪月花の記事によって、糸魚川の復興を応援してくれてると、このように、私、感じるんですよ。これは、やっぱりチャンスをつくっていただいているんだと思いますけども、これをどう生かしていくか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

割烹鶴来家さんにつきましては、雪月花のお弁当をお届けしておられるかっぼうでございますけども、今回の大火でかっぼうが焼けてしまいました。年の暮れでした。新年になってから、雪月花に積み込むお弁当がどうなるんだろうかなという心配もしておりました。できるだけ早く、仮設でお弁当をつくっていただけるようにということで、関係機関と連携しながら、何とか新年のお弁当のお届けに間に合わせていただきました。

その後、鶴来家さんが、ご自宅のほうで仮設の営業を始められておまして、私も何度かお昼を食べにいったことがありますけども、そこで、今、田原議員言われるような雑誌も見せていただきました。

本当に今、この発災後 8 カ月が過ぎましたけども、全国の皆さんがやはり糸魚川を注目し、糸魚川を応援してくださっている。その一つに、雪月花の位置づけもあるんだろうなと思っております。ぜひ、雪月花を利用して、糸魚川においでいただき、糸魚川の食材を楽しんでいただき、また、復興している糸魚川のまちを見ていただくことも、大変重要なことではないかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9 番（田原 実君）

それで、注目を浴びているということへは、これからいろいろと策を打っていただけたらと思います。ぜひ、このチャンス、生かしましょう。

それで、私ちょっと気になってることがありまして、糸魚川市民は、雪月花についてどう思っているのかなということなんです。雪月花で糸魚川のイメージアップを図るということが、これから必要になりますよね。カラーコンテンツになり得るんだっていうことであれば、それやっぱりやらなきゃいけませんよね。

まずは、子供たちがこの雪月花に興味を持ってるかなというところなんですけども、ホームに停車しているところでもいいと思うんです。この雪月花、世界の最高の賞、デザインの賞をもらったものを、地元の子供に見せてあげたいと思いませんか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔こども教育課長 山本 修君登壇〕

○こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

子供たちに本物を見せて、見てもらう、体験してもらうということは、非常にいいことだと思います。ちょうど11月12日、日曜日ですので、教育活動にということは難しいかと思いますが、こういう列車が大糸線を走るということ、子供たちに学校を通じて伝えて、子供たちに関心を持ってもらうということは、大事な事かというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それが、具体的にどのように展開されるかわかりませんが、雪月花来たら手振ってやろうとか、そういったところからやっていったらいいんじゃないですかね。お願いいたします。

私、常日ごろから、糸魚川が乗り物のまちとして有名になることを考えております。今、新幹線で首都圏からのアクセスはよくなりました。駅には新幹線と、えちごトキめき鉄道と、あいの風とやま鉄道と、JR大糸線が乗り入れてます。路線バス、タクシーに駅前から乗りかえができ、レンタカーもレンタサイクルも、駅前から利用できます。

乗り物のイベントも盛んです。日本海クラシックカーレビューは、ことしで26回目。今回、来場者が4万人を超えたと、過去最高だと伺いました。ピアパークバイクミーティングや、グランフォンド糸魚川も、全国から参加する人気のイベントとなっています。これが、交流人口拡大と、同時に市民の誇りとなっていると考えます。

さて、このことによる経済効果、PR効果はどのくらいとお考えでしょうか。何か数字を出してありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まず、経済効果のほうでありますけども、観光庁の経済波及効果測定モデルによりますと、およそ入場者数が1万人だとすると、直接効果で約5,000万円というように試算されております。ということで、クラシックカーレビュー、4万3,000人だと5,000万円の4.3倍といった数字になろうかと思っております。

PR効果につきましてですが、車、バイク、そして自転車とそれぞれ関心の高い層があるわけで

すけども、それぞれの層への情報発信につながっていったというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もうちょっと専門的に教えてくださいよ。

さらに、経済効果を生むように、糸魚川のPRに役立つように、また市民の関心を高めるようにすべきではないのかなど、私は思います。

そこで、もう1回伺いますね。今のこの経済効果、PR、そこで行政の役割。もう1回、交流観光課長に伺いたいと思いますし、また、この市民の関心を高めるようにするというところではどうなのか、その点もお答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

例えば、グランフォンド糸魚川につきましても、BSでありましたけども、かつて全国放送があったりといったことで、これが糸魚川市内のみならず、全国への情報発信、そしてそういったマニアの方へも伝わるということで、非常に大きな宣伝効果があると思っております。

そういった、いわゆる全国で評価されているといったことを、市民の皆さんにもお伝えしていきたいですし、こういったイベントにつきましても、交流観光課として皆さんと連携する中で、SNSへの情報発信、あるいはホームページの情報発信といったことで、PRに努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民の関心を高める、あるいは誇りに思う気持ちを育てるということで、先ほど伺いましたけど、子供たちにこの機会を体験するチャンスっていうものを、もっと持ってもらいたいと思うんですね。そこら辺、行政としてやるには難しい面もあるかと思うけど、やはり乗り物のまち糸魚川っていうことで、大きくなってからも自慢ができる、まちの自慢できるっていうことは大事だと思うんですね。その点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔こども教育課長 山本 修君登壇〕

○こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

糸魚川市の教育の大綱でも、「わがいといがわ」と言える子供たちをつくらうということが、ス

ローガンとして掲げられております。子供たちに誇りを持って暮らしてもらう、生活してもらうためにも、関心を持ってもらうことは大切なことかと思えます。

大糸線がすぐ走っております、例えば大野小ですとかというところ、また、やまのい保育園さんなんかも、子供たち、大糸線を通るたんびに手を振ったりということもしております。地域の交通網についても関心を持ってもらうっていうことも、非常に大事かと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

この際、公共交通について、DMO的な見地から伺っていきたいと思います。

乗り物を生かした糸魚川の観光と誘客ということで、まだ伸びしろがあると、私、考えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

全国的にも、乗り物に関心が高いといった層は、非常に厚いものだと思っております。そういった層に対して、キハ52であり、あるいは今の雪月花であり、またジオラマの模型だったりといった、数多くの鉄道に関する資産があるわけです。これを、積極的に情報発信に努めていきたいと思っておりますし、さらにやっぱり、今の旅と鉄道、そして鉄道ジャーナルの中にも書いてありましたけども、新幹線で東京から2時間で行くんだといったことが、両雑誌にも書いてあります。その新幹線効果を、2時間で来るんだといったことをもっと前に出しながら、多くの方から糸魚川にお越しいただけるような取り組みを進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そこで、新幹線の利用と糸魚川駅からの二次交通について伺いたいと思いますが、新幹線利用者で、観光目的で糸魚川へ来る人はどのくらいいるのか。また、糸魚川駅からどこへどのように行くか、調べてありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

建設課として、新幹線の利用促進といいますか、利用状況を確認するために、定期的に乗降人数については調査しておりますところでございますが、その利用目的について、こういった形で分かれて

いるかといったような調査は、今のところ行ってございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

交流観光課では、毎年秋に、観光動態調査を実施しております。これは、マリンドリーム能生やフォッサマグナミュージアム、高浪の池、ジオパルといった施設で、そこにお越しいただいた方がどうやって来られたか、そしてどういう目的で来られたか等をお聞きしている調査を実施しているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

新幹線のDMO、大事ですよ。

次に、えちごトキめき鉄道や、あいの風とやま鉄道で、糸魚川へ観光に来る人はどのくらいですか。糸魚川へ来て、どこへどのように行き、何をしていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

建設課としては、先ほどと同様なんですけれども、大糸線につきましても、どのぐらいの乗降人数があるかの調査を行っておりますし、えちごトキめき鉄道でございますが、これにつきましては、朝の高田方面への乗降者数、あるいは混雑度、そういったものについて調べておるところでございます、目的別に調査は行ってございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

調査してないんで、次の質問、無駄になるかと思えますけど、一応、質問しますね。

鉄道からバスに乗りかえて、市内観光する人はどのくらいいるんでしょうか。その目的地はどこですか。乗りかえは便利だったんでしょうか。どうしてバスだったんでしょうか。幾らの金を交通費にかけたんでしょうか。安いと思ったんでしょうか、高いと思ったんでしょうか。

こういったことを、ちゃんと調べておく必要があるんじゃないかと思うんですよ。この点についていかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

交流観光課では、定期観光バス、あるいはマリンドリーム能生、さらに親不知ピアパーク等へ行くバスを運行しております。

こうした中で、アンケート調査を実施しているところでありますけども、まず、路線バスを利用するといった方は、タクシーと比べると運賃が安かったといったお話を聞いております。

また、シャトルバス利用者のアンケートで、料金的にはちょうどいいと答えた方が73%、高いと答えた方が17%、安いと答えた方が10.5%といった数字が出ております。

ただ、乗りかえについては、ふなれな観光客にとっては、まだまだ便利とは言えない状況があるというように、お話の中で聞いておりますので、その乗りかえ案内等について、さらに改善を図る必要があるというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

課長の一番最後のその答弁のところ、大事なんで、しっかりこれからやっていただきたいと思えます。

次に、ちょっと鉄道と自転車との組み合わせについても伺いたいですけど、DMOなんですけど、鉄道で来て、自転車を利用する観光客はどのくらいいるんでしょうか。その目的地はどこでしょうか。自転車でどんなコースを回っていかれるんでしょうか。自転車は自前ですか、レンタルですか。糸魚川に宿泊するんでしょうか。ご飯はどこで食べていくんでしょうか。幾らくらいのお金を使うんでしょうか。

こういった調査、必要になってくると思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほどの観光動態調査の中で、自転車を利用したという方が、マリンでは1.4%いらっしゃいました。フォッサマグナミュージアムでは2.2%ということですが、一方で高浪の池はゼロといったような数字が出ているところであります。

レンタサイクルに関しての状況でありますけども、去年、レンタサイクル、糸魚川駅周辺で貸し出しをしておりますけども、利用人数が520人ということで、前年比136.1%といった増加傾向にあります。

どこから来られましたかという質問に対し、1位が東京で23%、2位がスイスで12.5%、3位が神奈川で10%といった数字であります。

どちらを周っているかということですが、谷村美術館やフォッサマグナミュージアム、糸魚川市内の海岸、久比岐自転車道、マリンドリーム能生といったことをお聞きしております。

飲食につきましては、市内の飲食店や道の駅でお召し上がりで、その平均金額であります、1,260円といった調査結果がまとまっているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

質問を変えます。

糸魚川市の石、ヒスイが日本の国の石になりました。ヒスイは糸魚川の観光の大きな目玉です。ヒスイと関連する市内の海岸や、小滝ヒスイ峡への公共交通でのアクセスを調査・分析し、新しいニーズへの対応や利便性向上の施策はできていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

糸魚川押上のヒスイ海岸、そしてラベンダービーチとも路線バスで行くことができます。基本的には、ご案内は路線バスといった案内をしておりますが、中には、その時間ではということで、タクシーをご利用いただくといった方も多くなっております。

また、ヒスイ峡につきましては、路線バスは運行しておりませんが、定期観光バス、これ、秋に運転しておりますが、そういった対応をさせていただいております。

いずれにしても、利用者のニーズを踏まえる中で、的確な対応をしていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

アンケートの数字の結果だけ見て、何か利用が少ないからニーズがないっていうんじゃないかな、まずいと思うんです。今回の質問は、新しいニーズをどう考えていくかっていうところなんです。

それで、糸魚川駅から、えちごトキめき鉄道や、あいの風とやま鉄道で、ヒスイのある海岸や施設へ行く案内はありますか。押上海岸、青海海岸、親不知に行くには、そういった鉄道の利用、これからどのように考えていかれますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

きのうも、朝のテレビ番組で糸魚川のヒスイ探しといった番組が、全国放送されたということがあります。

8月の案内所への問い合わせですが、180件あったということで、非常にヒスイ探し、ヒスイに対する興味というのは高くなっているのかなといった形であります。

こうした中で、基本的にはそれぞれの4カ所あります観光案内所で、いろんな情報提供に努めているところでありますし、それから自由通路のほうにもパンフレットコーナーと、あるいは見どころの紹介といったものをしていくところであります。

こういったところを通じながら、ヒスイに対する関心が高まる、そして糸魚川に来てもらう。そして、糸魚川でヒスイに触れてもらうといった取り組みを、進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

答えとしてはそうなんだろうけど、今回、観光と鉄道の組み合わせで聞いているんですから、やっぱりそこら辺を考えながら、お答えいただきたいなと思います。

それで、以前から要望している、押上海岸に近い新押上駅をつくれれば、今度、ここを拠点にヒスイめぐりの旅が考えられると思います。それには、交通の便をよくしていくということですから、そのための駅建設ということもあると思います。

ただ、ヒスイ海岸というところの利用ということになれば、このターゲットを女性と子供たちとした場合、長い時間、海岸に滞在して安心できる施設、きれいなトイレとか、絶対に必要になってまいります。その整備もあわせて進めていただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

海の魅力アップ推進計画の中では、押上海岸にトイレ等の便益施設をつくるという位置づけを、平成31年から33年ぐらいの間で整備したいということで、位置づけしております。

今、ご案内のとおり、こうやって関心が高まってくる中で、そういった対応に計画的に進めていきたいと思っていますし、現在、関係機関とさまざまな情報交換をする中で、どこが適地で、どういう整備方法があるか、現在、協議を進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

海あり山ありの糸魚川、ジオパーク糸魚川ということで、小滝ヒスイ峡に行くということと、そのこれからの観光活用ということで伺いますが、小滝ヒスイ峡は、アメリカのヨセミテ国立公園

に似ているとも言われ、今後、インバウンドで人気が出る可能性があります。

そこで、大糸線をどう使うかです。そのことを検討してきましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現在、北アルプス日本海広域観光連携会議で、去年から、特にインバウンドの対応をした、自転車活用といった対応に、今、活動を進めているところであります。

ご案内のヒスイ峡でありますけれども、小滝の駅から平岩駅まで、国道148号線もありますけれども、県道山之坊大峰小滝線がございます。それは、ヒスイ峡へ、またつながる道でもあります。標高差、大変あるわけですが、こういった道を活用する中で、海外からのお客さんに情報発信し、また、それに対する整備も進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

厳しく見れば、大糸線はいつまで走るか、存続するかと。JR西では、採算のとれない路線はやめたい。三江線の次は大糸線とうわさされています。今後の見通し、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

大糸線の利用者数がJR西日本の中でも、極めて少ないといったことについては、私らも、十分承知をしておるつもりでございます。

ただ、大糸線をいかに生かしていくか、これから大糸線に活躍できる場が、どうやってできるかといったことについて、市としてもいろいろ検討しておるところであり、例えば、今年度でございましたら、全線開通60周年記念事業といったことでイベントを行いまして、特に今回、雪月花が入ることになりましたけれども、そういったことも含めて、いろんな方に認知していただく、しっかり利用していただくといったことが、重要なことかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

この大糸線を失わないために、観光施設等を結びつけてやっていく、あるいは大糸線そのものの魅力を使う、また魅力のある列車を走らせるということだと思っておりますけれども、それ、ここで一ま

とめしていただきたいです。大糸線を失わないために、大糸線利用の新しいニーズ、考えた施策というのが役所にあるのかどうか、もう1回、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当に、特効薬は、今、持ち合わせておりません。

ただ、いろんな面で仕掛け等を、今、させていただいておる部分がございます。それはまだまだ、先ほどご指摘いただいたように、伸びしろがまだまだ、本当にスタートしたばかりで、どっちかという、伸びしろのほうが大きいのかもしれません。

そういう中で、今、我々といたしましても、この60周年を機会に雪月花もお願いしてきたわけです。それも、かないました。今まで、本当にできないだろうと思ってたことが、動き始めた部分がございます。だがそれは、1回こっきりで終わるのだろうか、非常に不安な部分がございます。そういう部分もやはり、これからこの大糸線の利用促進を進めていく中において、今までもやってきたんですが、なかなかうまくいってはいません。

それは、なぜかと言いますと、本当に市に、住民の中に浸透しているかという、まだまだしていないのではないかなと思っております。上辺だけで捉えている部分がございます、なかなかやはりそこら辺が課題かと思っております。

それをどのようにやっていくか、マイルール意識をどのように持っていくのか。それがやはり、しっかりしていかないと、事業者にもやはり響いていかないのではないかなと思いますので、その辺をしっかりやらなくちゃいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市長、ありがとうございます。

質問を変えます。糸魚川駅にある鉄道ジオラマの活用について伺います。

この鉄道ジオラマが、集客と税収額に役立っています。ジオラマ設置以来、どのくらいの来場がありますか。また、ここへ鉄道で来る人、ほかの交通手段の人、どのくらいなのでしょう。分析してありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ジオラマの利用者ということで、実際にお金を払ってジオラマを使われた方の人数でありますけれども、開業以来8月末で、1万5,000人を超える人数になっております。

その割合ですが、鉄道と車の利用がほとんどで、割合はそれぞれ同じぐらいといったところで、鉄道を使って来られる方半分、車を使って来られる方半分といった数字になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ジオラマに子供たち来てますよっていうだけじゃ、DMOにならないんですよ。ここからが大事だと思うんです。

ジオラマに来るリピーターは、長い時間ここにいる、係の人のお話では、お昼ご飯をどこで食べたらいいかと尋ねられるそうです。お昼ご飯を食べて、また午後からジオラマで遊んでいかれる、そういうニーズがある。でも、そういったお客様向けの駅周辺の情報や案内が、いま一つのことです。おみちょう御膳みたいな立派な印刷チラシじゃなくて、お手軽に美味しいランチを食べるお店を案内したチラシ、手書きのものでもコピーでもいいので、これを渡してあげることができれば喜ばれるのというお話でありましたが、このこと、ご存じでしたか。ご存じならば、今後、どう対応していかれますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、おっしゃられたお話については、職員から聞いているところでございます。

今、ジオラマには、北口、そしてアルプス口、両方のまち歩きマップというものを置いてあります。その中には、飲食店、あるいは観光施設等の案内をしているところでありますけども、より具体的な情報が欲しいといったニーズもあるというように聞いておりますので、この辺につきましては、関係の皆さんと相談、そしてぜひ、議員おっしゃられるようなチラシ等ができないかどうか、働きかけをしてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

結局、周辺の方が、ジオラマに来たお客さんのために、どうしたら商売になっていくのかということと、それから観光を案内する側も、どうしたらにぎわいを出していかってところの、そのすり合わせの話し合っているのが、できてないんじゃないの。それがいいから、今みたいな事態なんじゃないですか。そこ、これから大事ですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、ご指摘の分野は、まさにこれからDMOで取り組んでいかなければならないことだと思います。一事業者、一交通事業者、あるいは職員といったことではなくて、いろんな人と情報交換をする中で、お客様のニーズを的確につかみ、そして改善をしていくといった取り組みが必要だということを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

乗り物に乗る人、駅に来た人が、お昼を食べに駅前を歩けば、それはすなわちにぎわいですよ。復興計画でも、にぎわいづくりには苦慮しているようですが、こういうことの一つ一つの積み上げが、にぎわいになっていくんじゃないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

私も、そのように思っております。とりあえず今は、一つ一つの積み上げが、にぎわいをつくり上げていく大切な時期でもあり、今、それを仕掛けるときでないかというふうに思っています。

ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

公共交通を利用する一連の時間と空間のデザインが大切。そこに新しいニーズがあると、雪月花のデザイナー、川西先生から伺いました。そのとおりでありまして、今後の糸魚川の公共交通利用をふやすために、観光のニーズを考えていくとするならば、乗り物の情報発信、乗りかえ案内、飲食施設、観光施設との連携、駅など乗りかえ場所へ行くことが目的となるような工夫、乗りかえの待ち時間を快適に過ごせる工夫、それらによって来訪者をふやし、にぎわいをつくること、これが必要になってくると。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、おっしゃられました、各観光施設のわかりやすい案内表示、あるいは案内、さらには待ち時間を利用した取り組みといったものは、非常に大事だと思っておりますし、それを進める上で、やはりお客様の立場に立って、何が必要なのか、何が不便なのかといったことを捉えることが、非常に大事だと思っておりますので、今、おっしゃられた視点を大切にしながら、観光誘客に努めてま

いりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

また、その一方で、日常的な交通の経済もつくっていかねばならないと。市民ニーズを考え、改革していかないと、公共交通の利用は先細るばかりとなり、存続と維持のための行政負担はふえていきます。現に、公共交通への補助金は、年々増加しており、路線バスとコミュニティバス、乗り合いタクシー、合わせて1億4,000万円以上と資料にあります。

これを、この先どうするのか。地域医療もそうですが、その確保のために、毎年の大きな支出を続けるには、市民の理解も必要です。この点も、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

建設課におきましては、昨年度、公共交通網形成計画といったものを策定しております。糸魚川市の公共交通がどうあるべきか、どうしていきたいかといったもの、マスタープラン的なものでございますが、昨年、作成させていただきました。

ことは、実施計画といえますか、地元に入って、今、一生懸命、どういった形で公共交通網を再編できればいいかといったものをやっておる最中でございますが、人口や、あるいは公共交通の利用者が激減していいですか、減少する中、どういったふうにすればいいかといったことを、いろいろ考える必要があると、私のほうも思っております。

それで、市民、あるいは交通事業者、市の協働による公共交通の再編。あるいはモビリティ・マネジメント手法を取り入れた、積極的な啓発活動、主体的な利用促進などの取り組みが絶対的に必要であると思っております。それには、やっぱり市民の理解が不可欠であるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川市地域公共交通網形成計画の概要についてもお話いただきました。

これ、とってもよくできています。とってもいい計画だと思います、実施できればね。ただ、このことを、まだ知ってる人は少ないと思うんですよ。これ、どうやって市民に理解してもらおうかなと思うんです。

それで、今、お話にありましたが、そのモビリティ・マネジメントについて伺いたいと思います。聞きなれない用語ですが、市民の公共交通の利用に向けた意識改革が進むというふうに、この中で

書かれているんですけども、これ、少し解説をしていただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

モビリティ・マネジメントといいますと、なかなか皆様には聞きなれない言葉かなというふうには思っております。ただ、中身は国土交通省とかもいろいろお話、資料とかでもあるんですけども、過度に自動車に頼る状況から、自動車というのは自家用車といったことですが、公共交通、あるいは徒歩、あるいは自転車、そういった多用な交通手段に適度に賢く利用をする状況へと、少しずつ変化を、変えていくといった一連の取り組みというふうに説明されております。これは、モビリティ・マネジメントと言っても、今までいろんなところで公共交通を利用しようといったことでお話をしてきたことであり、そう言えば皆さんにご理解いただけるのかなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

多くの市民の方から、特に新駅をつくる予定の周辺の住民の方から、このことを理解してもらう必要あると思うんですよね。本当に、意識変えるっていうことは大変ですよ。相当、皆さんも熱入れてやらないとね。意識が変わっていただければ、また新しい未来の公共交通の姿というものが出てくるかもしれない。

ここからが、私の本題なんですけども、ぜひその新駅、押上駅を建設を進めていただきたいと思うんです。市民意識を変える、それから観光的な要素を強めていく、さまざまな取り組みをして、このえちごトキめき鉄道、押上駅の建設を進めていただきたいと思うんですが、交通・観光・市民・住民の意識改革、これをあわせて、今後どういうふうに取り組んでいくのか、前向きなお話をいただきたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

押上の新駅につきましては、今現在、国土交通省とかいろんなところで協議を進めているところでございます。

その中で、やっぱり議員言われるとおり、駅をつくるということは、どんな駅をつくるかということも大事ですけども、どうやって利用していただくのかといったことが、一番大事なのかなというふうに考えております。どうやって利用していただくから、どういった施設が必要なんだと。だから、ここにこういった施設をつくれればどうでしょうかといったことで、そういった先ほど来の

お話を、モビリティ・マネジメントといったことを、しっかりと住民の皆さんとお話をしながら、じゃ、どんな行動をとっていただけるのか。それが、駅にとって、公共交通にとってどういうふう
に有利に進めることができるのか、そういったことをしっかりとお話をしながら進めることによっ
て、議員おっしゃられる前向きな方向に進んでいくのかなというふうを考えておりますので、よろ
しく願いいたします。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、続きまして、ロケーションを生かすまちづくり、再生とにぎわいのまちづくりについて、
2回目の質問をいたしたいと思います。

最初のご答弁でお答えいただきましたが、被災した区域・周辺区域が最も繁栄したときの人口・
なりわいの業種・産業についてということで、もう少し詳細に伺いたいんですけども、この糸魚川
のにぎわいと言ったときに、どこを標準として考えてるのかなと。あの雁木の中が押せ押せのとき
だったのか、いつなのかという。それがないと、やたらにぎわいだとかって言うってても、ちょっと
わからない。どのくらいの人が住んで、どのくらいの売り上げがあつてというような、そんなとこ
ろの数値みたいなものを、やっぱりどこかに持って、それに向かって計画をするっていうものじゃ
ないと、ただ計画つくって終わりなんですよ。そこら辺、ちょっと伺いたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

議員のご質問につきましては、にぎわいがどういうイメージであるか、また、それがどういう数
値であるかということで承らせていただきたいと思います。

市長の答弁につきましては、先ほどありましたように、昭和50年代、事業所数が一番多かった
ところをご説明をさせていただきました。その後、現在については、相当、事業所数も減ってきて
おりますし、年間商品販売額っていうのも、中心商店街については大幅に減少しておるっていうの
が実態であります。

したがいまして、かつてのようなにぎわいというのは現実的には難しいんでないかな。商業機能
はもちろん兼ね備えておって、さらに新しい機能を付加した、そんなにぎわいが必要でないかなと
いうふうに考えております。市長のほうも、たしか答弁の中で、人が見える、これがにぎわいでな
いかという答弁もさせていただいたかと思っておりますので、新しい機能も付加したそんなにぎわ
いについて、今後、検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川市では、平成12年の中心市街地活性化計画というのがありました。これは、どのような計画でしたか。また、計画はどのくらい実現しましたか。まちづくりは成功しましたか、失敗しましたか。率直に伺います。率直にお答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

中心市街地活性化計画につきましては、ご案内のように、平成12年3月に策定をしております。一つが中心市街地の整備・改善と、もう一つが商業の活性化等を一体的に推進する基本的な方向を示したものであります。

これについての評価でございますけれども、公共的な事業については、ある程度達成したものだということに考えております。一方、民間が主体の事業につきましては、正直なところ未達成のものも、現実的にはございます。

これまで、同様の計画については、反省点としましては、PDCA分析だとか調査が不足しておったというふうに考えております。

じゃ、計画が、当初の計画どおり実現したかということにつきましても、検証を加えた上で、さらに今後の復興計画に生かしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そうですか。そんなにできてないと思いますよ。みいちゃん通りの水路の上にふたしただけじゃないですか。

この計画と、今回つくっている復興の計画と、どこが違うかって言えば、災害に強いまちづくりって項目が、今回つくっただけ、ついただけなんです。あと、何にも変わってない、大したこと。だから、今回の復興計画はどうなのかなって、私、心配しているんですよ。その点、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

今ほど、ご指摘のありました、みいちゃん通りの整備、それからポケットパークの整備、こういうものについては実施をされたというふうに考えております。

ただ、海辺の駅整備事業でありますとか、交流施設の整備、多世代への住宅供給、こういうものについては、まだ、実現をしております。

したがいまして、この中心市街地活性化計画、これで未達成のものも含めて、今回の復興計画の中で実現できないか、検討させていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今回の復興計画は大火に強いということで、いろんな事業案がありますが、防火性能を強化した建物による町並みと、都市再生機構URが指揮してつくる集合住宅と、あと残った土地を公園や駐車場にすることで、果たして糸魚川らしさやにぎわいがつくれるのかと。前例としての平成12年の中心市街地活性化計画がうまくいかなかった教訓を生かして、今度は、まちづくりを成功させることができるのか、私はとても心配しています。その点、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も心配しております。であるからこそ、今、施設のみではいけないですよというのを、今、させていただいております。いろんな要望も、ただ、糸魚川市がつくっておるだけではございません。中心市街地の本町商店街の皆様方や、また、商工会議所の皆様方と意見交換をしております。

そういう中で、今、計画を詰めていく状況でございまして、決して施設ありきでは、私は今回は進めたくないという考えでございまして。たとえ、にぎわいの拠点という形になっていても、もしかしたらできなくなる可能性もあるかと思っております。みいちゃん通りにいたしましても、どちらかという、何か押し切られて終わったというところも、私は感じております。

ですから、今回はその辺の教訓を生かさせていただいて、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そこで、糸魚川らしさを感じる景観づくりなんですよ。

今回、小布施町の成功例を引き合いに、糸魚川のまちづくりを考えましょうということで、質問に盛り込みました。

この小布施まちづくりの奇跡に書かれている修景という手法や、オープンガーデンによる住民のまちづくりへの参加、観光客に喜ばれている小布施流まちづくりを参考に、糸魚川流のまちづくりを考えてみる必要を感じ、質問しておりますけれども、これはごらんになりましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今の質問には、また担当課長が答えますが、私は前段でもお話ししたように、やはりハードありきではないと思っております。糸魚川らしいというのはどういうことかという、やはり私は、糸

魚川の人たちが、やはりそこで継続して住んでいける、そして自分たちのまちだと思えるようなものを、やはりつくっていきたいと思っておりますので、私はその形のみならず、景観だけではなくて、糸魚川の人たちの、やはり思いの入ったまちにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（齊藤 孝君）

一般質問通告でいただきました、小布施まちづくりの奇跡、私も読ませていただきました。景観と修景の違いの関係ですとか、小布施もかなり昔から長い時間をかけて、建築家が修景に取り組んで、今の小布施のまちづくりをしてきたということも、読ませていただきました。

にぎわいは、単なるその、物が売ればいいだけではないと、私は思っております。非常にその1997年の消費税が5%になったころから、小売りの環境は非常に厳しくなっております。また、高齢化が進んできております。そういう中で、地域の価値をどのように見つけていけばいいかということは、小売りで物を売ればいいということだけではないと思っておりますし、またあるいは、先ほど新幹線で自転車を持って、糸魚川におりていただくという、そういう若い世代の方々の情報発信も利用しながら、糸魚川流の価値観をどこに求めていくかということ、これからみんな探していく必要があるんだろうなと思っております。そこには、これからのまちづくりの中には、空き家ですとか空き店舗、それから移住者、若者、体験をしていただくというふうなことも、これからのまちづくりの中には、大変重要なことではないかなと思っております。

9月の9日に、消防防災フェアを開催していただきました。地域にゆかりのある方が、路上でライブをしていただきました。私は、あの若者を見て、こういう若者の、もう時代なんだなど。我々が考えていくにぎわいとまちづくりとは、また一種違う観点で、にぎわいをつくってくださっているという、そういうところも、私は、大切にしていける必要があるんだなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

いいお話でしたね。

今、その前の答弁の中で、修景と景観の違いっておっしゃったんだけど、それ、町並み保存と修景の違いじゃないでしょうかね。

今の答弁にあったとおり、時代は変わってきたと。糸魚川らしさとかそういったものを、にぎわいとかっていうことを考えるときに、このやっぱり人と人、それから人とまちの調和ということを考えていく必要があると思うし、それにはやっぱり大勢の人の参加があって、皆さんの意見がどこにどう取り込んでいくのか、また何か補助をやるだけじゃなくて、その後ずっとみんなでやることは何かというところだと思うんですね。その点、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

加賀街道に面した、過去の皆さんが作り上げてこられた雁木が、今回の大火で燃えてしまいました。古き町並みをつくり上げてくださった、そういう修景を、もとの戻そうということとあわせて、重点地域の4ヘクタールの景観と不燃化を、みんなで協力しましょうというふうなことでの、今、ガイドラインの積み上げをさせてもらっておるところであります。

小布施の例にもありますけども、景観・町並みというのは、1年や2年でできるものではないと思っています。ですけども、我々、今この復興まちづくり計画をなし遂げていくには、ある一定の期間の中で、景観・不燃化を統一していかなきゃならん、そういう時期にあるんだろうと思っています。

ある程度、市が作り上げました景観・不燃化のガイドラインを、皆さんにはお話しし、お示しながら、1人でも多くの協力をいただけるように、今、取り組んでいるところでもあります。その取り組みが、やはり10年先、20年先、もっと言うと50年先に、町並みが統一されていたんだなということにつながっていくんだろうと思っておまして、そのこのところを我々は、今、しっかりと取り組んでいかなきゃならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

雁木のお話が出ました。雁木は、その統一感を持たせるハードというふうに捉えられがちですけども、私、これ糸魚川のまちの調和をつくっていく大事な要素だと思っておるんですよ。

この著書の中にもありますけども、今までの近代的なまちづくりはAかBかだというような、切り分けられてると。だけど本来は、AでありBであったんだと、その多様性というものがまちらしさをつくってたんだとすれば、雁木こそ、このAでありBなんですよ。歩道であり、店先なんですよ。私有地であり、みんなが歩いてるんですよ。そこに、今までの長い歴史、木造の家づくり、店づくりっていうものがあるからこそ、これが糸魚川らしさということで、皆さんは雁木でいいんじゃないかと言ってるように、私、思うんです。だから後は、雁木の奥の住まいとか店とか、そういったところも、人がどんな生活をしているっていうところを考えながら、にぎわいっていうのはどんなもんなのかということをお考えいただきたいと思うんですけど、それが、私、糸魚川流のまちづくりじゃないかなと思います。

ただ、この雁木のデザインは非常に大事になってきますんで、これからそれをどう進めるか、この機会に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

雁木の捉え方については、私も田原議員と同じであります。雁木のちょっと奥に入った町並み、これを今、我々は雁木とあわせながら、景観と不燃化を統一したまちづくりをしようということで、

取り組んでおります。

どちらかという、今まで、糸魚川市においては景観・町並みの統一とか、そういう景観行政的なものは、そんなに積極的に取り組んできてなかったんじゃないかなというふうには、私は感じておるところがあります。

ですので今回、この大火を踏まえまして、雁木も含めその奥の景観・町並み・不燃化を統一しようという動きについては、これからの糸魚川の中心市街地のまちづくりの第一歩ではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私からの提案は、統一ではなくて調和。この調和にこそ、糸魚川らしさが出るということだと思うんです。人と人、人とまちとの調和、建物の調和ということを考えながら、進めていただきたいと思えます。

それでは、このAとBの話なんですけども、私が3月と6月の議会で提言してきたこと、これもまさにAとBなんです。道路であり、その上が眺望のいい公園であるとか、あるいは南向きのテラスハウスでありながら、その下に駐車場をとったらいいとかっていう、このやっぱり複合的な活用ってものが、糸魚川らしい、これからのまちづくりの一つになっていくんじゃないかなと思って、今回あえて、また提案をさせていただくんですけども、ごらんいただきたいと思えます。

実は、道路の上に公園があるという実例であります。白山神社ですね。白山神社の近くの白山公園が、そのようになっております。

すみません、後ろの方、見えなくて。

それで、白山公園の中に入りますと、立派な歩道がありまして、その上に上がっていく。上の公園に上がっていく。この上がったところの丘の下が、道路になっているわけなんですけども、このように階段で上がっていく。もう一つの手段としては、エレベーターで上がる手段があるんですよ。ここの前の道から上まで、大体6メートルということ。だから建物でいえば、2層分ということになります。

その公園の中にありました、屋根付きの駐車場であります。この上に屋根がついていて、下に車が入るようになっているわけですね。これをちょっと説明したいんですけども、例えば、ここに国道8号があって、その上が公園だよ。その南側になります、今度は。南側のところに、南に向いた斜面があって、その下が駐車場、日当たりのいい南向きに、2層のテラスハウスの集合住宅をつくってはどうかということ。です。

この被災、大火に遭ったエリアですけど、大体この海岸の長さが200メートルということなんですけども、この200メートル全部っていうわけにはいかないと思いますが、これ全てが、今、お話ししたような利用をするとなると、50平米から60平米くらいの平家の住まいが、庭付きの住まいが大体60戸で、駐車場が60台とれます。

こういったものを、今回の復興の一つの目玉にしてはどうだろうかということでの再提案なんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

一つのご提案だとして、お聞きをさせていただきました。

復興計画を、我々つくり上げてくる中におきましても、検討委員会の中からはいろいろな夢のあるご提案もいただいてきておりました。その中で我々は、ともかく修復型のまちづくりを選びながら、被災された皆様が1日も、また事業者の方も1日も早く再建、仕事ができるようにということを、まず第一に取り組んでまいってきております。

その中におきましても、今のような用地の確保というのは、非常に難しい部分がございます。ただ、今、64%の方々が、生活者・事業者の方も含めてですけども、もとの所に戻りたいということでもあります。

そうなりますと、残りの方々の土地を道路に充てたり、公園に充てたりということ、これから復興計画の中で掲げた、6つのプロジェクトの中で取り組んでいかなきゃならんわけでありまして、ご提案のような機能につきましても、将来イメージの中に、海望施設というようなもの、あるいは市営住宅のようなもの、そういうものも描かせてもらっておるわけでもあります。それらを、これからより具体的に進めていく時期に来ているなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もう1回、ご理解いただきたいのは、新しいまちづくりですよ。AとB、あるいはCじゃなくて、切り分けられたものじゃなくて、複合しているところににぎわいが出るよってことなんですね。駐車場と集合住宅と公園じゃないんですよ。それらが一体になっている。しかも、住まいの環境が格段に上がる、そういったところに高齢者の方に、安心して住んでもらいたいなど。また、そこが魅力あるもんだと感じれば、当然、糸魚川に越してくる人もいるでしょうね。観光客の人がふえると思いますよ。そういう提案をしております。ただ、夢を語っているだけではない。極めて現実的な提言だと、私は考えて、ご提案をしています。木村副市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

木村副市長。〔副市長 木村英雄君登壇〕

○副市長（木村英雄君）

ご提案ありがとうございます。

そうですね、今、課長が申し上げたとおりですね、さまざまなご意見をいただいているところで、我々としても今後、正直なところ、どうやってやろうかっていうのは、今、本当にさまざまな方々のご意見を聞きながら、考えているところでございます。

ただ、やはり一つ考えるのは、公園をつくれれば人が来るわけではないと。本当に、何をすれば来るかと。必要なものをつくらないといけないということですね。

皆さんご存じのとおり、人口がふえてる時代ではございません。本当に必要なものを、必要なだけつくっていくと。こういったところがポイントだと思いますので、海に見える公園をつくれれば人が来るといった発想だと、ちょっと厳しいのかなと。どんな公園をつくれれば、本当に人が来るのかと。あるいはどんな住宅をすれば、高齢者を初め、あるいはちょっと観光客とおっしゃってましたけど、観光客の方が来るのか、こういったところをよく考えながら、この辺が、今、我々も非常に悩んでいるところがございますけれども、こういったところを考えながら、次の施策に取り組まないといけないなと思っているところでございます。

今後とも、さまざまご意見をいただければと思います。どうぞよろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川のニーズって、やっぱり海の眺めなんですよ、山の眺め。そのことを、まだ理解されていないんじゃないですか。

糸魚川の方に諮ってみてくださいよ。これと、今の案の公園、どっちが欲しいですかって聞いてみてください。

市長、最後に何うんですけど、この国道8号の上に、私、今、公園の提案をしているんですけど、8号線の下が、何か侵食されてるとも聞いてるんですよ。そういううわさ、聞いてませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その辺の話は聞いてございませんが、吸い出しが、もしあったら大変なことでございますので、その辺はまた、国交省のほうにお話をかけていきたいと思っております。

ただ、国道8号というのは、非常に今、海岸線、押しなべて塩害工事をしておるわけでございまして、なかなか非常に今、ご指摘の点については、私は、ハードルは高く感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ロケーションのいいまちづくりを進めて、糸魚川の未来をつくってください。よろしく申し上げます。

質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で田原議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開を3時10分といたします。